



 潮来市

人口ビジョン・まち・ひと・しごと
創生総合戦略 2015－2019

概要版



人口ビジョンの位置づけ

- 国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、日本の人口は平成20年の約12,800万人をピークに減少に転じ、現在の状況が続けば、2060年（平成72年）には、約8,700万人にまで減少すると推計されています。
- 潮来市においても、平成7年以降、一貫して人口減少傾向を示し、このまま人口減少が進めば、本市域の経済の縮小や、地域コミュニティの衰退など、今後の市政・まちづくりに対し、大きな影響を与えることが予想されます。
- 潮来市人口ビジョンは、このような状況を踏まえ、本市における人口の現状分析を行いつつ、人口の将来展望を示すものです。

人口ビジョンの期間

■目標年次：国の長期ビジョンの期間を踏まえ2060年とします。なお、2040年時点での人口についても推計^(注)を行います。

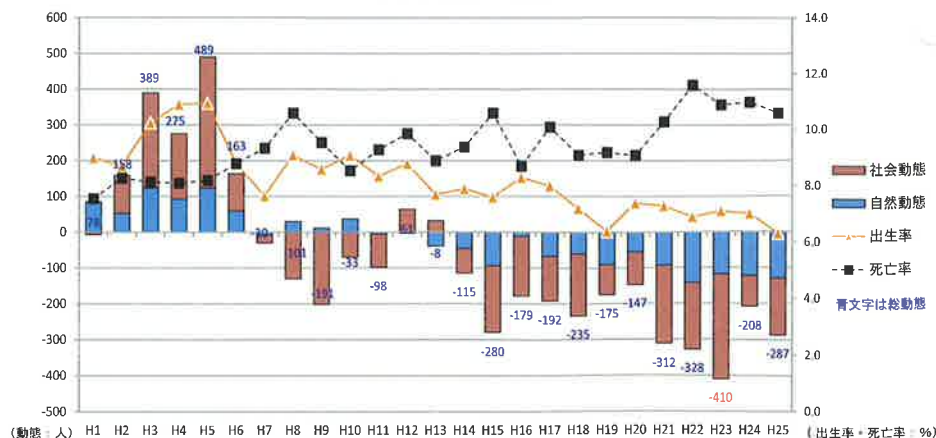
(注) 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の「日本の地域別将来推計人口（平成25（2013）年3月推計）」に準じた推計値を示す他、国から提供された人口推計ワークシートにより、移動率及び出生率を設定し推計を行います。

潮来市の人口に関する現状

- 潮来市の人口は、戦前は20,000人前後の人口を示していましたが、戦後の昭和22年には、引き揚げ等により24,979人まで増加しました。
- その後は昭和40年調査まで一時減少傾向を示した後、昭和45年からは鹿島開発等の影響により増加に転じ、平成7年までは再び増加傾向となりますが、平成7年の32,133人をピークに減少に転じ、現在まで減少傾向を示します。
- 自然動態と社会動態を合わせた総動態を見ると、平成7年以降減少し始め、平成12年以外は全て減少となっています。特に平成14年以降は100人を超える減少が続き、中でも東日本大震災が発生した平成23年には410人の減少となっています。この傾向から、本市の人口減少の要因は、主として社会動態によるものと考えられますが、年齢別人口構成や少子化傾向を考慮すると、今後は自然動態による減少も大きく影響すると考えられます。



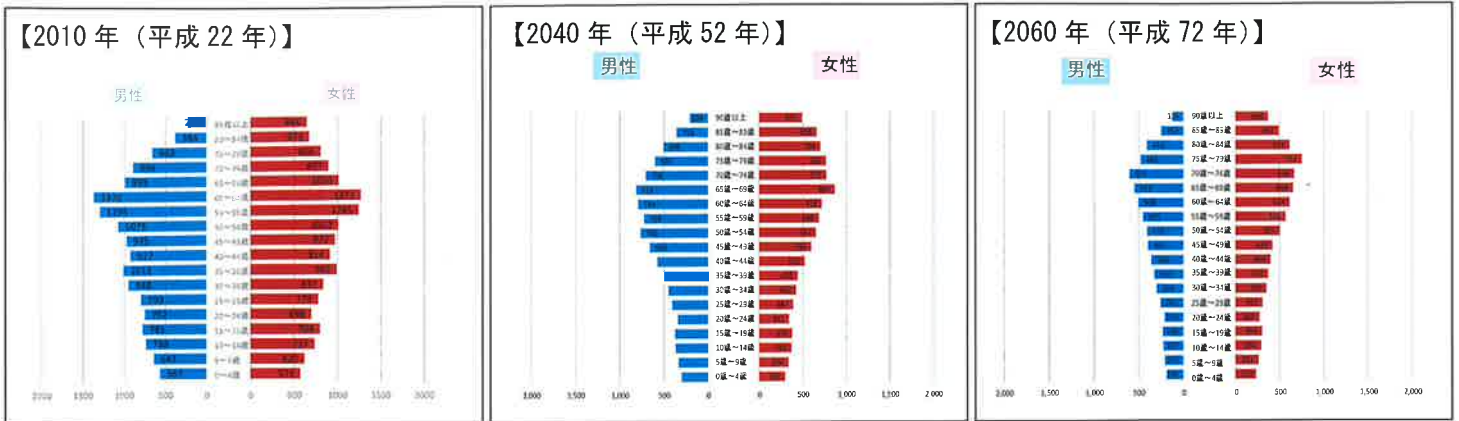
図 - 社会動態の状況



潮来市の人口の見通し

○国立社会保障・人口問題研究所の推計による潮来市の人口は、2040年に21,842人、2060年に15,582人になると推計されています。

○人口減少の要因は、社会移動に伴う転出超過ですが、自然減少数の影響も大きくなってきており、現在の人口構成を考慮すると、当面はこの傾向は続くと考えられます。



人口減少が地域に与える影響

1. 人口減少が地域に与える一般的な可能性

■行政区や地域コミュニティの衰退

地域の基本単位である行政区や地域コミュニティの活動低下により、自治活動や防災活動等、地域が担うべき役割が充足できなくなるとともに、地域の祭りや行事等の地域文化の継承が困難になることが考えられます。

■地域産業の衰退

若年人口の減少により、総合的な生産人口の減少だけでなく、専門の人材・技術的人材の不足も想定され、地域産業の衰退を招くことが予想されます。

■生活支援機能の衰退

日常生活を支える商業・サービス、金融、医療、公共交通等の生活支援機能も、地域人口の減少に伴い統廃合が進むことが予想され、利用者の減少によるサービス水準の低下も考えられます。

■生活・生産環境への影響

人口減少に伴う空き家・空き地の増加、農業後継者の減少に伴う耕作放棄地の増加等が予想されており、既成市街地の空洞化、地域景観の悪化や治安の悪化等が懸念されます。

■公共・公益施設の維持・管理水準の低下

税収減に伴う公共・公益施設のサービス水準低下、また、新規整備が困難になると共に、維持・管理に対する負担の増加も予想されます。

■行政サービスの縮小と社会保証の負担増

市町村民税の減少により、行政サービス・活動内容の縮小が予想され、社会保障についても、年金等における若年層の負担増加が考えられます。

2. 潮来市で想定される影響

①地域活動の衰退と活用されない公共財の増加

本市の場合、各中学校区にそれぞれ市街化区域が設定され、市街地整備や供給処理施設の整備が進められてきましたが、このまま少子高齢化が進んでいくと、活用されない公共財の増加が考えられます。

②市内の事業活動の縮小

若年層が市外へ流出することにより、市内で事業を始める可能性のある人材が流出し、市内での事業活動の縮小を招くことが予想されます。

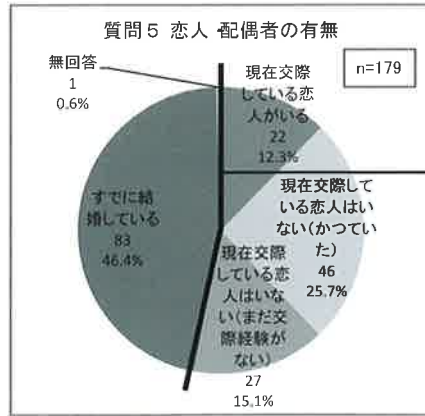
③観光サービス産業の衰退

本市の重要な産業である観光サービス業については、観光客の減少と共に、サービスを提供する人材不足が懸念されています。観光分野におけるニーズの多様化に伴い、本市でも通年型観光への移行、周辺観光資源の連携等への取り組みが求められます。

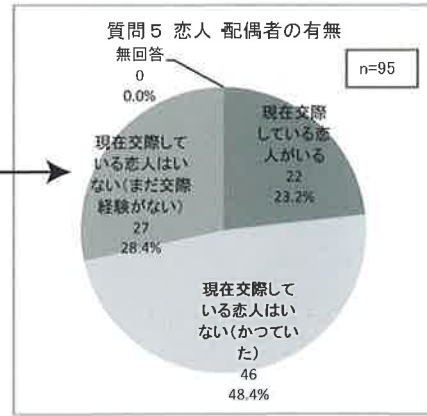
アンケート結果の概要

■恋人がいない若年層が多くなっています。

○市内在住の26歳～35歳の方を対象に、結婚に関する意向を調査



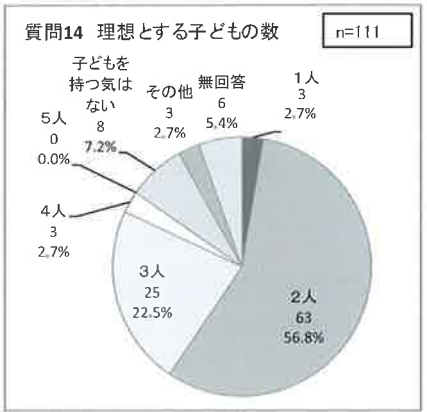
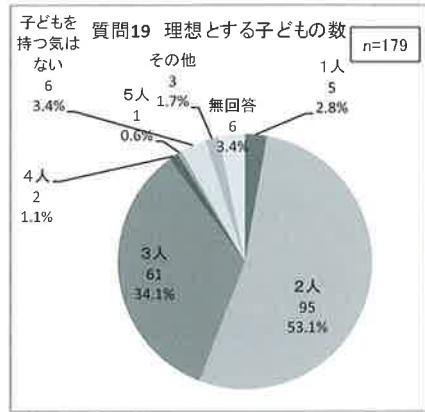
未婚の方の恋人の有無



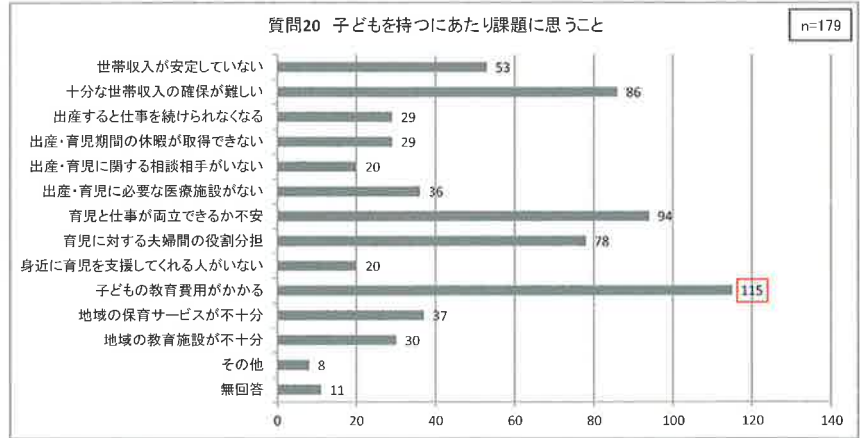
■若年層が理想とする子どもの数は2.4人(18～25歳は2.3人)となっています。

[市内在住 26～35歳：中央値 2.4人] [市内在住 18～25歳：中央値 2.3人]

○市内在住の18歳～25歳の方を対象に、将来の進路に関する意向を調査

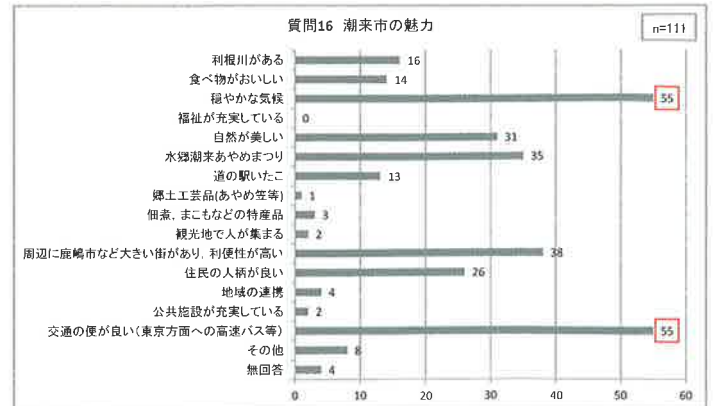
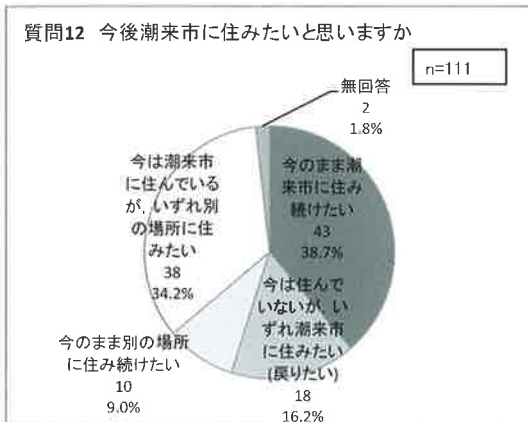


■子どもを持つにあたっての課題は、教育費用や世帯収入の確保等、経済面の課題が多くなっています。



■潮来市外に居留意向を持つ若年層が多くなっています。

■東京方面への高速バスの利便性が評価されています。



市民会議において挙げられた潮来市の資源

- 計画策定にあたって組織された、「潮来市まち・ひと・しごと創生市民会議」では、潮来らしい地域づくりに向けた潮来市の地域資源として、次のような資源と活用の方向が挙げられています。
- 特に水辺空間の活用可能性、高速道路・高速バスによる都心への利便性の高さの活用が指摘されており、地方創生における独自性のある施策・事業の構築に当たり考慮すべき要素と考えられます。

<市民会議で挙げられた主な地域資源>

地域資源	活用の方向
水辺空間	<ul style="list-style-type: none"> ○水郷という従来の視点だけでなく、水辺のレジャー空間としての活用を検討する。 ○釣りに適したロケーションであることから、釣りイベントの充実も考えられる。 ○嫁入り舟は本市を代表する資源であり、本市ならではの結婚式として活用することが考えられる。 ○ボート競技の場にもなっており、教育分野への活用も考えられる。
体験型観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ○高速道路や高速バスにより東京からのアクセス性の高さと、自然環境を活かし、あやめまつり以外の新たな観光資源を創出する。
水郷県民の森	<ul style="list-style-type: none"> ○アスレチック施設やイベントの充実により、子育て層にとって魅力的な施設にするとともに、交流資源として活用する。
高速道路 ・ 高速バス	<ul style="list-style-type: none"> ○東京方面への通勤・通学手段として、便数や駐車台数の充実を図るとともに、地域の交通拠点として機能の充実を図る。 ○日の出地区は高速バスへのアクセスもよいので、東京方面への通勤・通学も可能である。 <p>【参考】東京駅への最多の便数を誇る水郷潮来バスターミナル 水郷潮来バスターミナルには、東京駅－鹿島神宮線（一日往復 164 便）、東京駅－波崎線（一日往復 16 便）の 2 系統により、一日あたり往復 180 便の東京駅行の高速バスが発着しており、一日の東京駅発の路線では、便数・利用者数とも最多の路線となっています。東京駅までの所要時間は約 70 分です。</p>
東京との位置	<ul style="list-style-type: none"> ○東京に近く自然が多い地域で、バスの本数も多いという特性を活かし、水辺の遊びや水郷県民の森を利用した観光に取り組む。
あやめ・あじさい	<ul style="list-style-type: none"> ○古くからの観光資源であるあやめ園を中心に、あじさい等他の花を育てることにより新たな観光名所づくりを進める。
農業・農産物	<ul style="list-style-type: none"> ○農産物のブランド化を進めるとともに、加工品の開発・販売に取り組む。
伝統文化	<ul style="list-style-type: none"> ○潮来祇園祭禮等の伝統文化は、地域住民の繋がりを強め、定住意向の向上に資するものであることから、伝統文化の推進に取り組む。

目指すべき将来の方向

将来の方向－1 都心と鹿行地域の連携拠点を目指します。

■「高速バスの利便性」を活用した地域づくりを進めます。

地域の交通拠点として潮来市の拠点性を高めます

- 高速バスを活かした公共交通拠点として、水郷潮来バスターミナルのハブ化を推進するとともに、公共交通による周辺地域とのネットワーク形成を図り、地域における拠点性を高めます。

都心と繋がりながら地方で暮らす働き方を実現します。

- 高速バスによる都心へのアクセス性を活かし、サテライトオフィスやホームオフィス等の実現に取り組み、必要な時に都心のオフィスに通勤する層の移住、首都圏に転出する若年層の定住を促進します。

将来の方向－2 出生率 1.8 を目指します。

■若い世代が「子育てを楽しむ」ことができる環境を創造します。

若年層の出会い、結婚や子育ての不安等に対する支援を行います。

- 若年層が希望を持って地域で生活できるよう、出会いや結婚を支援するとともに、出産から教育まで一貫して支援する体制を確立します。
- 保育サービスの充実や雇用情報の提供により、若い世代が生き生きと子育てと仕事を両立できる環境を創出します。

地域で働くことを支援します。

- 子育てと自分の時間の確保が両立できる生活を提供するため、潮来ICの利便性を活かした企業誘致と、市内や神栖・鹿嶋等での雇用情報提供、日の出地区での定住促進等に取り組みます。

将来の方向－3 潮来の魅力に触れる機会と地域との繋がりを活用します。

■「水郷潮来」の魅力に触れる観光交流を大切にします。

観光産業の充実を図ります。

- 成田空港からのインバウンド需要の取り込みによる観光産業の活性化を図るため、あやめ園や嫁入り舟をはじめとする「水郷潮来」の観光資源の活用を図るとともに、水辺や自然を活かした新たな観光資源・サービスの創出に取り組みます。

伝統文化を活用した交流を促進します。

- 潮来祇園祭禮をはじめ、潮来市民が主役となって継承されている伝統文化を交流資源として活用し、潮来の魅力発信と地域のつながりを醸成します。

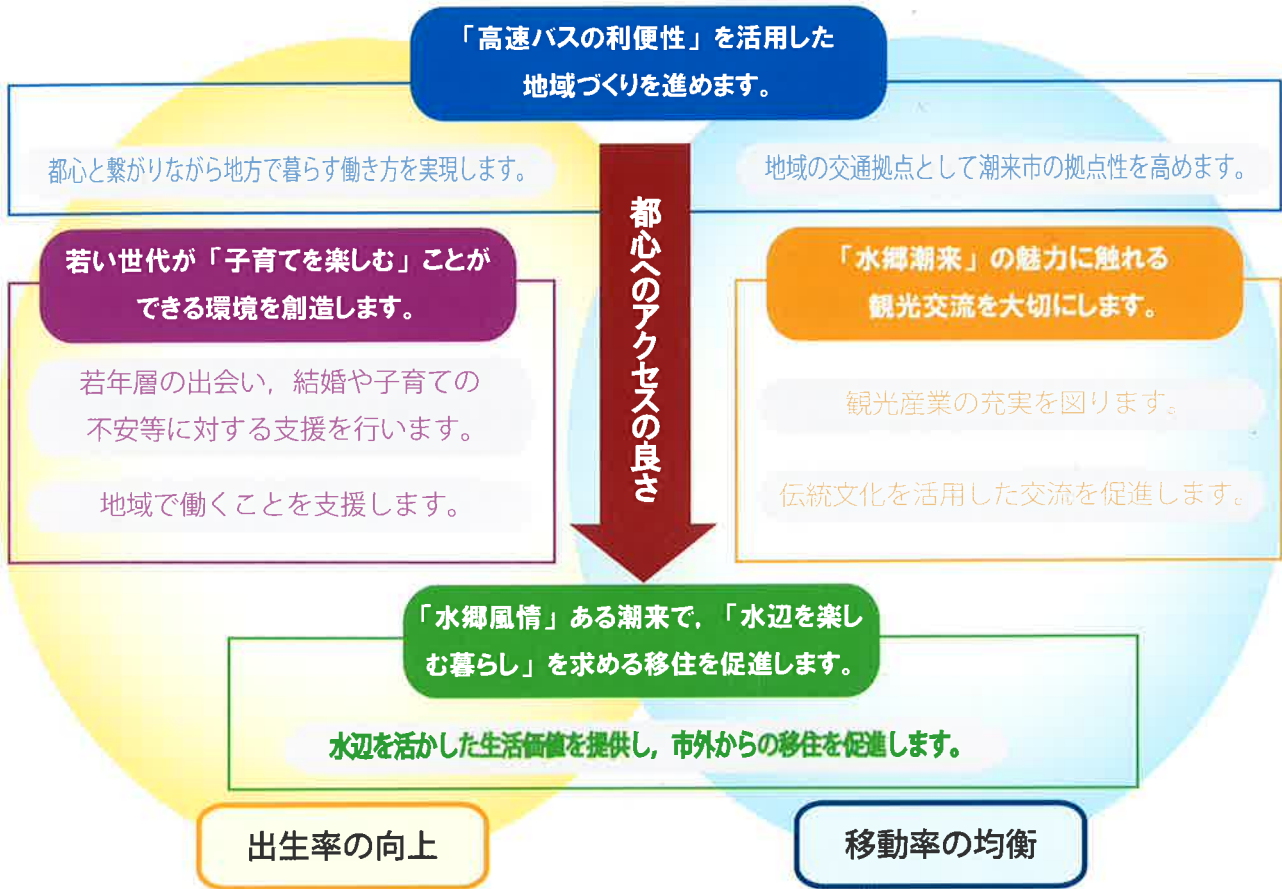
将来の方向－4 都心に70分。“便利な田舎の生活”を提案します。

■「水郷風情」ある潮来で、「水辺を楽しむ暮らし」を求める移住を促進します。

水辺を活かした上質な暮らしを提供し、市外からの移住を促進します。

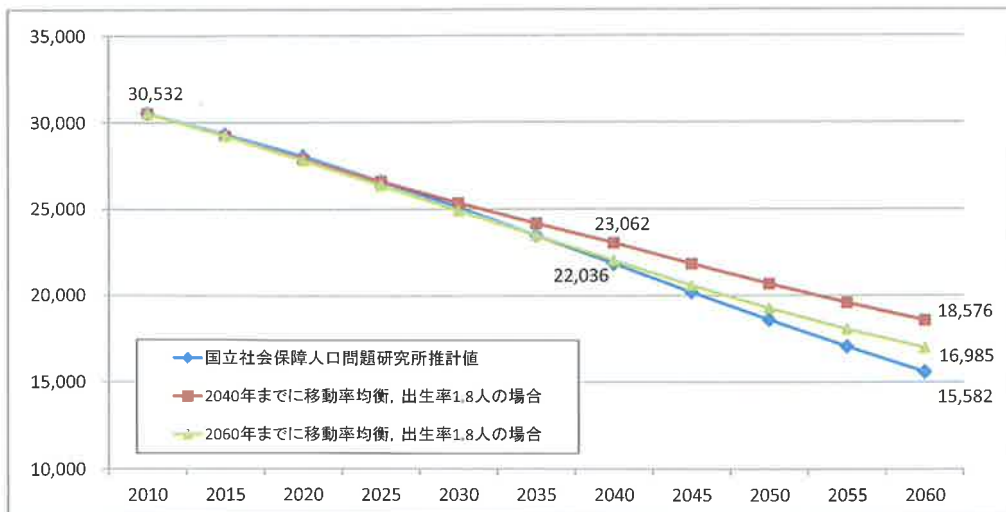
- 本市が持つ雄大な内水面という水際環境を活かした個性ある地域づくりを進めるため、「水郷」という地域イメージに加え、「都心にアクセスしやすい田舎」という特性を活かし、水辺を活かしたスポーツやレクリエーションが体験できる水辺の暮らしを演出し“他にはないライフバリュー”を訴求し移住を促進します。

＜目指すべき将来の方向＞



将来人口の設定

- 将来人口については、国立社会保障・人口問題研究所の推計結果を基準としつつ、今後の「出生率」や「社会動態（移動率）」が現状よりも改善することを想定します。
- 出生率及び移動率の改善は、総合戦略に位置づける施策効果によるものであり、その効果が「どの時期に表出するか」により将来人口が変化することになります。本計画では、将来人口推計の設定条件として、現状のまま推移するケース他、出生率の改善、移動率の均衡が2040年と2060年に達成された場合を想定しますが、目標として、2040年までに設定した条件が充足されることを目指し、将来人口を2040年に約23,000人、2060年に約19,000人とします。



想定ケース	H22年 2010	H32年 2020	H42年 2030	H52年 2040	H62年 2050	H72年 2060
国立社会保障・人口問題研究所推計値	30,532	28,045	25,084	21,842	18,579	15,582
2040年までに移動率均衡, 出生率1.8人の場合	30,532	27,907	25,362	23,062	20,688	18,576
2060年までに移動率均衡, 出生率1.8人の場合	30,532	27,824	24,915	22,036	19,265	16,985

潮来市まち・ひと・しごと総合戦略

1. 計画期間

平成 27 (2015) 年度から平成 31 (2019) 年度までの 5 年間

2. 基本目標の構成

国の総合戦略においては、「地方における安定した雇用を創出する」、「地方への新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」という 4 つの基本目標が定められています。

潮来市では、この 4 つの基本目標を踏まえつつ、人口ビジョンで示した 4 つの将来の方向に基づき、“しごと”や“子育て”、“魅力ある地域づくり”を通じて好循環を確立し、地方への新しい人の流れをつくるため、以下の 3 つの目標に集約して総合戦略の基本目標を設定します。

潮来市総合戦略の基本目標の構成

■ 国の総合戦略の基本目標

地方における安定した雇用を創出する

時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

地方への新しい人の流れを創出する

■ 潮来市人口ビジョン

■ 将来の方向一1 都心と鹿行地域の連携拠点を目指します。

■ 将来の方向一2 出生率 1.8 を目指します。

■ 将来の方向一3 潮来の魅力に触れる機会と地域との繋がりを活用します。

■ 将来の方向一4 都心に 70 分。“便利な田舎の生活”を提案します。

潮来市総合戦略における政策の基本目標

■ 基本目標1 安心安全な地域づくり・時代にあった地域づくり・地域と地域の連携

- 東日本大震災の被災経験や液状化対策等の復興事業を活かした生活基盤づくり
- 広域公共交通の整備による地域間連携の充実

■ 基本目標2 若者の希望を実現する環境づくり・地域が支える子育て・健康づくり

- 若年層の希望を実現できる環境創出と水郷潮来ならではの教育の充実
- 市民の人生のプロモーション支援と、移住・定住希望者への「潮来ライフ」の提案

■ 基本目標3 元気な地域産業づくり・安定した雇用の創出

- 基幹産業に対する支援と、新たな観光産業の創出、起業・創業等による雇用の創出
- 広域観光の推進と儲かる農業の実現
- 結婚適齢層や若年層、出産・子育て世代の女性の雇用創出
- 高速バスを活かした働き方や企業誘致、起業・創業等による安定した雇用創出

基本目標と施策パッケージ

基本目標 1 安心安全な地域づくり・時代にあった地域づくり・地域と地域の連携

基本的方向	<p>潮来市での魅力ある暮らしを創出するため、東日本大震災の被災経験や、全国的にも例のない液化化対策をはじめとした復興事業を教訓とし、真の復興を図り、より安心で安全な生活の基盤づくりを進めます。</p> <p>また、広域公共交通の整備等、地域間の連携に取り組みます。</p>
数値目標	<p>(1) 本市に住み続けたいと思う人の割合 (%)</p> <p>H27年度 38.7% → H31年度 50%</p> <p>(2) 20歳～39歳の転出超過者数</p> <p>H26年度 110人(転出 538人・転入 428人) → H31年度 0人(転出 500人・転入 500人)</p>

1 全ての人にやさしいまちを創ります。

○買い物や医療等、日常生活に必要な利便施設とサービスの充実を図るとともに、公共交通網の整備等により、全ての人暮らしやすい環境の整備に取り組みます。

〔具体的な施策〕

広域公共交通ネットワークの構築 都心への高速バス通勤・通学者への助成
水郷潮来バスターミナル駐車場の市民利用時の無料化 転入者へのサービス拡充
住宅エコハウス化の促進

2 潮来の街や文化を活かして住んで楽しいまちを創ります。

○水辺や田園環境の中での暮らしを希望する層に向け、水郷潮来が持つ雰囲気を活かしたライフスタイルを提案します。

○移住・定住だけでなく、週末滞在や体験居住等、多様な住まい方を実現できる地域として、本市の自然環境を活用するとともに、空き家・空き地を活用した居住の場の提供を図ります。

〔具体的な施策〕

旧磯山邸・旧 JA 倉庫の移住、定住等への利活用 文化推進事業
空き家・空き地情報バンクの充実 移住体験事業

3 若い世代が楽しみながら家族と暮らすまちを創ります。

○若い世代の結婚や子育ての希望をかなえるため、若者や新婚世代のニーズを把握しながら、暮らしや子育てに対する支援施策の充実を図るとともに、公園や公共施設の充実に取り組みます。

〔具体的な施策〕

既存(公園・運動)施設の機能・サービスの充実 若い世代の住宅取得支援
潮来で暮らす「遊び」と「食」の魅力発信

4 地域が一体となって安心と安全を実感できるまちを創ります。

○暮らしの基本である、防災や防犯に取り組むとともに、自治会等を単位とする地域コミュニティや地域の伝統行事の維持・継承に取り組みます。

〔具体的な施策〕

地域の防犯強化 日の出地区における官公署の誘致
医療環境の充実

5 企業活動や仕事がしやすいまちを創ります。

○若年層や移住・定住希望者が、潮来を舞台に、起業や働くことができるよう、潮来市の産業立地環境のPRを充実するとともに、東関東自動車道潮来IC周辺をはじめとして、土地利用の規制緩和に取り組み、企業立地を促進します。

〔具体的な施策〕

企業誘致の推進 就労支援事業
U I J ターン促進事業

基本目標2 若者の希望を実現する環境づくり・地域が支える子育て・健康づくり

基本的方向	<p>○若年層の希望を実現できる環境を創出するとともに、水郷潮来ならではの体験や学習を取り入れた教育の充実に取り組みます。</p> <p>○生涯を通じて、生きがいや自己実現の楽しみを持ちながら暮らせるよう、生涯学習プログラムの充実、多世代の役割創出に取り組みます。</p> <p>○既に潮来に暮らす人々の人生のプロモーションを支援するとともに、移住・定住希望者に対する「潮来ライフ」の提案に取り組みます。</p>
数値目標	<p>(1) 本市の合計特殊出生率 H26年度 1.36 → H31年度 1.45</p> <p>(2) 市内結婚・子育て世代の理想とする子どもの数 H27中央値 2.3人 → H31 2.5人</p>

1 「THE結婚～運命の人と出逢いたい～」を演出します。

○若年層が出会いや結婚に対する不安を持つ中で、“嫁入り舟”が有名な潮来ならではの出会い・結婚の支援に取り組みます。

〔具体的な施策〕

定住・婚活促進事業 新婚さんいらっしやい事業

2 「潮来で赤ちゃん産みたい・育てたい」を応援します。

○潮来市が持つ環境の中で、結婚し子育てをする若者の移住・定住を促進するため、出産・子育てにおける不安や負担の軽減を図るための支援施策の充実に取り組みます。

〔具体的な施策〕

少子化対策事業 妊娠・出産・育児に関わる経済的支援 子だくさん応援プロジェクト	子育て支援の拠点づくり 不妊治療助成事業（望まれる妊娠事業） 育児休暇取得の推進
---	--

3 子どもの笑顔が見られるよう、教育の充実に取り組みます。

○子どもが笑顔に包まれ、関心や興味を持って成長できるよう、格差のない学校教育の充実に取り組むほか、家庭や地域における子育てや教育においても、世代間交流等を通じコミュニケーションを養う子育て環境を創出します。

〔具体的な施策〕

潮来市放課後児童クラブ事業 学校図書館整備事業 専門教育の充実	魅力ある学校教育環境 地元の高校等との連携 ポート教育の充実
---------------------------------------	--------------------------------------

4 「人生プロモーション～生涯学習～」を応援します。

○生涯を通じて、生きがいや自己実現の楽しみを持ちながら暮らせるよう、生涯学習プログラムの充実を図り、既に潮来に暮らす人々の人生のプロモーションを支援するとともに、移住・定住希望者に対して“潮来ライフ”の創造に取り組みます。

〔具体的な施策〕

子育て交流支援事業 農家になろうよ事業（育てよう野菜と絆）	潮来市の家族になろうよ事業
----------------------------------	---------------

5 「わくわくしちゃう！健康づくり」に取り組みます。

○健康や食育に対する関心が高まる中で、本市の農産物や水産物を活かした食生活やライフスタイルの提案を行うとともに、食文化や健康をテーマにした創業や高齢者のいきがづくりに取り組みます。

〔具体的な施策〕

わくわく食べる健康事業 医療体制の安定化推進事業 予防接種事業	健康増進事業 特定健診・特定保健指導等・各種健診の充実 母子保健事業
---------------------------------------	--

基本目標3 元気な地域産業づくり・安定した雇用の創出

基本的方向	<p>○観光・サービスや農業等、本市の基幹となってきた産業を支えるとともに、高速道路を活かした企業誘致、インバウンド等に対応した新たな観光産業の創出、起業・創業等の多様な働き方の支援を通じて安定した雇用の創出に取り組みます。</p> <p>○観光マネジメントや他市町村と連携した広域観光を推進します。また、特産品開発や6次産業化により、儲かる農業の実現に取り組みます。</p> <p>○安定した雇用の創出に向けて、結婚適齢層や若年層、出産・子育て世代の女性の雇用創出を目指します。また、高速バスを活かし、サテライトオフィス等の新しい働き方を支援します。</p>
数値目標	<p>(1) 年間の観光入込客数 H26年度 268万人/年 → H31年度 300万人/年</p> <p>(2) 道の駅いたこ 加盟者数（うち加工販売者数） H26年度 75人(23人) → H31年度 86人(28人)</p>

1 観光資源の創出と観光情報の発信を充実します。

- 潮来市は古くから、県内でも有数の観光地ですが、インバウンドの取り込みや新たな観光ニーズへの対応による交流人口の創出を目指し、観光プロモーションの強化、既存の地域資源の活用と新たな観光資源の発掘等に取り組みます。また、市民や事業者の参加による観光振興を図るため、市民からの情報発信、花を活用した観光、嫁入り舟と地域の飲食店とのタイアップ等も進めます。
- 一方、これまでの鹿嶋市、香取市との水郷三都や、霞ヶ浦沿岸地域との連携による観光振興について、取り組みをさらに充実するほか、茨城県を含め近隣自治体と連携した観光ルートづくりに取り組みます。

〔具体的な施策〕

外国人観光客誘致事業	観光メニューの拡充
潮来観光プロモーション事業	広域観光振興の更なる強化
水郷筑波サイクリングロードの整備	観光マネジメントの強化

2 いろいろな働き方を応援します。

- 市内での雇用機会の確保を図るため、多様な業種の企業誘致に取り組むとともに、起業創業支援により、多様な働き方が選べる環境づくり、女性が安心して働ける環境づくり等に取り組みます。

〔具体的な施策〕

起業・創業者支援事業	空き校舎等活用事業
にぎわい施設誘致事業	潮来ワークライフ発信事業
サテライトオフィス誘致・テレワーク推進事業	食品工場誘致事業

3 農産物を活かした新たな産業づくりを応援します。

- 地域の基幹産業である農業の振興を図るため、農産物のブランド化を進めるとともに、農家収入の安定化を目指し、道の駅いたこを拠点とした、加工品の開発、販売プロモーションの強化に、ハイウェイオアシス等の制度を活用した再活性化に取り組みます。

〔具体的な施策〕

地産地消販売促進強化事業（6次産業化推進事業）	特産品開発事業
農業再生事業	

4 潮来を舞台として交流を図る環境づくりに取り組みます。

- 潮来市には、観光に携わる人材や企業が多くあることから、このようなネットワークを活かし、潮来市への観光交流イベントの誘致を図るとともに、拠点機能の整備を目指します。
- 茨城国体・東京オリンピック・パラリンピックを契機に、潮来市の交通の利便性、地域資源、環境を活かし、スポーツによる地域活性化を図ります。また、市内のハイウェイオアシス等の設置について検討します。

〔具体的な施策〕

スポーツを活かしたまちづくり	ハイウェイオアシス等設置構想
----------------	----------------



概要版

潮来市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略



平成28年3月

潮来市

